

ち同じようにチフスで三百人近く死亡し、その始末はどうなったか、私どもでは分かりません。

入ソ当時まだ体力もあって元気いっぱい頃、警備兵との間にトラブルが生じ、マンドリン銃を構えられ、もうこれで終わりだなと覚悟したことがあります。今、思い出しても冷汗の出る出来事でした。

昭和二十二年四月收容所を出発、ナホトカへ。五月三日復員しました。

昭和五十八年に全抑協に入会、この運動に参加しております。元気なうちに一度現地を訪れて慰霊をして来ないと私の戦後は終わらないと考えておりますが、残念ながらまだその機会に恵まれません。

私の回想記

岐阜県 山 口 武

一、兵役

昭和十九（一九四四）年一月八日、軍隊入営日に檢

葉で造られた大きな出征の門前に立ち、多数の隣人友人たちに日の丸の旗、歓呼に送られ、ああこれで男子の本懐やっとお国のためになれると思ひ、父は姉妹で数だけはたくさんいるが男一人の門出をさも自慢気にし、隣人の方々に一献差し上げて回り、常に言っておりました、裏の伊沢さんと二家だけが世間体も悪く小さくなっているだと言われた言葉を思い出していました。クラブ前に集合の皆様一言挨拶、万歳万歳の歓声を受け、町内会長さんを先頭に小学校校庭に集結。同年水野米造君をはじめ、小中学校生、男女青年団員、消防団、国防婦人会、各町内会の方々の祝辞に応え六人を代表して挨拶。歓呼の中、日の丸旗に送られ土岐市駅着、発車。鉄道沿線には小旗を振りたくさんの人々が延々と列を造り、歓呼の声に送られ、ああこれで故郷も見納めと思うとふと目頭が潤ってきました。当時の市助役山路さん引率で大阪より夜行、広島に着き駅前旅館に一泊し、広島見物後六人同室、思い思いを語り合いながら就寝。明けて練兵場にて入営手続終了。晴れて軍服に着替え、満身の喜びに胸熱く感

じました。

夜は身の回り所持品、軍服類に氏名書き、一週間程は練兵場において敬礼練習。十五日に新たな入営者を迎え、同年兵が多くなり翌日宇品港出航―釜山上陸―鮮満国境通過―牡丹江省伊林着も一面雪、広大な雪景色を部隊歌を唱えながら部隊のある丘地まで行進し、戦車八師団工兵隊配属、軍務に服しました。

二、抑留中の出来事

伐採作業は日本人特有の要領本分で何とかノルマを達成して、ノルマ定食を食べることができました。

貨車の積み降ろし作業はごまかしがきかない、これには正直言って降参しました。五十時間ぶっ続けで木材の積載作業をしたことがあります、本当にもう死ぬかと思いました。

その当時のことですが、トラックの運転手にノモンハンの捕虜だったという日本人と出会ったことがあります。もう帰化して子供もいるとのことですが、今その人がどうしているか心配です。もう少し細かい話を聞きたかったけれども、看視兵が警戒しているのでそ

れ以上は聞けませんでした。

平成二（一九九〇）年、初めての財団のシベリア慰霊訪問に参加して墓参をしました。その時は訪問地が限定していたため、私たちの抑留地へは行けませんでした。もう一度スイエフカ付近へ行ってみたいと念願しております。

現在は地域の老人会の役員として永年奉仕をしております。全抑協へも結成以来の役員で各事業に積極的に参加、少しでも役に立つように一生懸命努力をしております。

半世紀前の思い出

愛知県 三浦 鎌 市

人生は暗いトンネルを手探りで進んで行くようなものである。特に軍隊においては不思議な縁で会ったり離れたりするものであった。

昭和十七（一九四二）年四月十日大阪市に集合、満